

パリ・ベルギーミッションレポート



パリ警視庁

パリ警視庁では、多くのモニター画面が並ぶオペレーションルームも視察しました。市内や空港に設置されている防犯カメラの映像による監視を通じて、状況に応じた適切な指示を行う中枢機能は、テロ事件の対応にも威力を発揮したといえます

JATAは今年1月、パリで昨年11月に発生した同時多発テロ事件後の旅行需要回復を図るため、フランスとベルギーにミッションを派遣しました。今回のミッションでは、安全対策の確認を行うと同時に、リカバリ・プロモーションに向けた協力的体制の構築に向けて、現地関係者との意見交換なども行っています。

フランスでは、テロ事件の犠牲者に献花して哀悼の意を表明したほか、現地関係者と共同で記者会見を行い、パリ市やフランス政府が旅行者の安全を確保するために取り組んでいる具体例の説明などを通じて、世界的にも最も「安心安全」に敏感な日本人旅行者の需要回復の実現を図ることで、JATAとしてフランスのツーリズム産業への支援に取り組む姿勢をアピールしました。(5〜6ページに詳報)



パリでの意見交換会

パリ市内にあるホテルで開かれたフランス側のツーリズム業界関係者との意見交換会では、日本側が「安心安全志向が強く成熟しているものの、旅行会社のパッケージツアーへの依存度が高い」海外旅行マーケットの特性などを説明しました



献花

ミッションの一行は、同時多発テロ事件で20カ国以上の人々がコンサートの鑑賞中に被害に遭ったパタクラン劇場前広場で献花を行いました。現場に供えられた写真や国旗が、被害の痛ましさ伝えていきます

菊間副会長一行が安全対策など確認 プロモーションの今後についても意見交換



「ヨーロッパの美しい村」も視察

ミッションの一行は、同時多発テロ事件後の旅行需要回復に向けて「ヨーロッパの美しい村30選」に選定されたミディ・ピレネー地方のサン・シル・ラポビー（写真左）とアルザス地方のリクヴィル（写真下右端）も訪れ、両村を視察するとともに、村長をはじめとする関係者と意見交換を行いました



記者会見

菊間潤吾 JATA 副会長は、フランス観光開発機構やパリ・イルド・フランス観光局、パリ観光局、アコーホテル、アルザス地方観光局、ミディピレネー地方観光局の代表らとともに記者会見を行い、「テロ事件後、苦境にあるフランスのツーリズム産業の復興を支援したい」と語りました



※写真提供：トラベルビジョン



ベルギーも訪問

ベルギーでは、フランダー政府観光局・ブリュッセル市観光局・ワロンブリュッセル観光局との合同ミーティングを開催したほか、連邦公共サービスの内務・危機管理セクター長官（写真左）との会談も行いました。写真右はフランダー観光局長

